

基礎の成聖祈禱

※(敷地の中央に祭台を設け、東側に聖像、十字架、燭台、聖水を入れた聖水器、イソップ、基礎石(又は盛り土)を置き、祈願者及び建築に従事する者は司祭の後方で東向きに立ち、祈禱を始める。)

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

常套の始め

我等の神や光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。
天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢

司 誦

より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)
光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

蓋国と権能と光荣は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。

主憐めよ(三次)。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

来たれ、我等の王神に叩拝せん。
来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。
来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第四百十二聖詠

主よ、我が祈を聆き、爾の真実に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聴き給え。爾の僕と訟を為す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が霊を逐い、我が生命を地に蹂り、我を久しく死せし者の如く暗に居らしむ、我が霊は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠しきが如し。我古の日を想い、凡そ爾の行いしことを考え、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向い、我が霊は渴ける地の如く爾を慕う。主よ、速に我に聴き給え、我が霊は衰えたり、爾の顔を我に隠す母れ、然らずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に爾の憐を聴かしめ給え、我爾を頼めばなり。主よ、我に行くべき途を示し給え、我が霊を爾に挙げればなり。主よ、我

を我が敵より救い給え、我爾に趨り附く。我に爾の旨を行うを教え給え、爾は我の神なればなり。願わくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。主よ、爾の名に依りて我を生かし給え、爾の義に依りて我が霊を苦難より引き出し給え、爾の憐を以て我が敵を滅ぼし、凡そ我が霊を攻むる者を夷げ給え、我は爾の僕なればなり。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光荣は爾に帰す。(三次)

重 聯 禱

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

主憐めよ。(三次) (以下每次同様)

又此處に家屋の基礎を新たに築かんとする爾の諸僕婢〔某〕に、慈悲、生命、平安、壮健、救贖、眷顧、寛宥、及び諸罪の赦しを賜わんが為に祈る。

又この選ばれし土地に、天よりの降福を賜わんが為に祈る。

輔 又爾の諸僕婢〔某〕が善良の志を以てする企に、降福を賜わんが為に祈る。
輔 又此の基礎に降福し、聖神の力と働きと被とに因りて、爾の名の光榮の為に、
輔 障害なく、安全に、竣工に至るを賜わんが為に祈る。

輔 又此の工事に従事する悉の職人が、聖神の力と働きと被とに因りて其手の業
を助けられ、工事が進捗せしめられて、速に竣えらるるものとなるが為に祈
る。

司 神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給え、主宰や、
我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は仁慈にして人を
愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。

輔 主に祈らん。

詠 主憐めよ。

祝文

司 神・全能者、智慧を以て天を造り、地を其固き基に建てし萬有の造化主・造成

主や、爾の僕（婢）〔某〕、爾の能力の権柄に憑りて居處の為に家を築かんことを企
て、其基礎を置かんと欲する者を顧み、此の家を堅き石の上に基づけて、爾の
神聖なる福音經の聲の如く、風も、水も、其他の者も、之を害うこと能わざら
しめ、之を落成に至らしめて、此の中に住まんと欲する者を凡の敵の悪謀より免
れしめ給え、蓋権柄及び国と権能と光榮は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世
世に。

詠 アミン。

※（司祭は、「基礎石」又は「盛り土」に聖水を灌ぎながら曰く。）

司 此の石（又は敷地）は、此の聖水の灌がるるを以て降福・成聖せらる、父及び子
及び聖神の名に依りてなり。（三次）
詠 アミン。（毎時応答する）

※（司祭が十字架とイソップを持ち、敷地の四隅に聖水を灌ぐ時、左のトロパリを歌う。）

トロパリ（第一調）

詠 主や、爾の民を救い、爾の業に福を降せ、我が国に福を與え、爾の十字架にて、爾の住處を護り給え。 （必要に応じて繰り返し歌う。）

輔 睿智。

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠 ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

司 ハリストス神我等の恃や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。

詠 光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。 主憐めよ（三次）。
福を降せ。

司 ハリストス我等の真の神は、その至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。
アミン。

幾歳も

輔 主や、今新たに成聖せられし此の土地に立ちて祈る爾の僕（婢）〔某〕に、萬福にして平安なる度生、壮健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳にも護り給え。

詠 幾歳も。（三次）

※（司祭は、聖十字架に接吻させる時、彼（等）に聖水を注ぎ祝福する。）